

市の政策課題の進み具合

12項目中83件を実施しています

市政懇談会を二十三地区で開催し、高木市長と市民の皆さんが意見交換を行う中で、市長が掲げていたマニフェストに対する実施状況について質問がありました。市長公約は百二十二項目の市の政策課題として取り組み、既に八十三件が実施済み、あるいは実施中であり、そのほかもほとんどの項目で具体的な検討を進めているところ（下のグラフのとおり）。ここでは主なものを紹介します。

問い合わせは政策課 890 6512へ。

実施済みのもの

多くの企業が

公共事業などに

市が発注する工事や修繕を業者が受注するためには、建設工事の競争入札参加資格の申請をし、資格認定を受けていることが必要です。しかし、資格の認定を受けられない市内の零細業

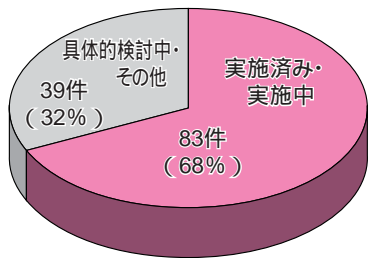
者が多く、受注できるような措置を講じてほしいとの要望もあり、小規模修繕工事契約希望者登録制度を五月一日から実施しました。

市民参加による 市政の推進を

この制度は市が発注する、一件の設計金額が五十万円以下で、内容や履行が容易な修繕・工事については、業者選定の対象にすることができるといふもので

平成十六年九月、一般公募の男女各四人と学識経験者など二人からなる、前橋再生戦略会議を設置。一年間にわたり、「これからの住民自治」をテーマに議論し、提案をいただきました。今年、さらに多くの市民参加による市政づくりを進めるた

122項目の進捗よく状況



クシミリで防犯情報の提供を行うとともに、防犯啓発活動として、県や警察と共同で防犯出前講座の実施もしています。さらに、地域の自主的な防犯活動への支援として、腕章やたすきなどを配布し、防犯ボランティア保険に加入。また、地域や団体に防犯パトロール車の貸し出しも行っています。



介護施設を4年で 200床増やします

特別養護老人ホーム、老人保健施設、療養型病床群を、介護保険三施設と呼んでいます。本市では特別養護老人ホームだけでも、平成十六年度に五十床、十七年度に二十床が開所し、さらに、十八年度に百床、十九年度に三十床と、四年間で計二百床が増える予定です。その他にも、老人保健施設百床、グループホーム七十二床が整備・開所されるなど、在宅介護を基本としながら、施設整備も計画的に進めています。

児童クラブの 拡充を推進

両親が共働きなどの理由で、小学校が終わってから家に帰っても面倒を見てくれる人がいない児童を対象に、放課後児童クラブを開設しています。専任の指導員が遊びや生活指導を行い、放課後の安全な生活の場を提供。現在、小学校内などに二十九所設置されていますが、市内すべての小学校児童が利用できるよう拡充を進めています。

新年度から新たに、桃井小・中央小地区、朝倉小・天神小地



指導員と楽しく遊ぶ子どもたち（広瀬学童クラブで）

区、山王小地区、元総社北小地区の四カ所に開設する予定です。

ゴミ有料化撤回と 減量・リサイクル

家庭ゴミ収集有料化計画を撤回し、次の四点を重点的に取り組みながらゴミの減量化・リサイクル促進に努めています。生ゴミ処理機器購入費の一部を助成、蛍光管と水銀式体温計を分別収集、プラスチック製容器包装を分別し十六年度は千六百を収集、紙箱やパンフレットなどの雑古紙を有価物集団回収品目に追加。また、集団回

収を利用できない人などのため、紙類の常設拠点回収を市有施設四カ所で実施。

中心商店街に 多くの新規開業を

熱血店舗開店支援事業を実施し、中心商店街への新規開業を支援しています。本年度一次募集で四店舗が開店しました。

本市農産物の 活発な消費と生産

農畜産物の販路拡大、有利販売に結びつくよう、首都圏の生鮮市場で「野菜まつり」などのPR活動を展開しました。特に

検討中・その他のもの

旧消防庁舎の 活用を進める

旧消防庁舎の既存建物を美術館にリニューアルすることで検討しましたが、老朽化や耐震性の問題で改修は困難と判明しました。そこで民間活力導入による中心市街地のにぎわい再生を図るため、公募提案型の競争入札による土地売却を実施。選考

県都として 誇りある市政

平成二十一年度の中核市移行に向けて、自主的・主体的な判断と責任で県都として誇りある市政の実現を目指します。保健

知力・学力の 日本一を目指す

小学校三、四年の三十人以上の学級に国語支援講師を配置しました。チームティーチングや少人数学習によって、個々の生徒の能力に応じたきめ細やかな指導をしています。

市立前橋の 中高一貫見直し

計画のあった中等教育学校の開校は中止しました。市立前橋高校の改革・充実・発展のための検討委員会を組織し、検討を始めています。

広瀬川生かした まちづくり

広瀬川河畔の整備は中心市街地活性化基本計画の中に位置付けています。市民の皆さんに愛されるように、商業地との連続性のある、にぎわい・憩いの快適空間とする検討を進めています。